

平成14年 ホッケ計量魚群探知機調査報告

北海道立稚内水産試験場資源管理部 電話：0162-32-7177（高嶋）

- 4月23日に仙法志堆(利尻根付近)において、ホッケを対象とした計量魚群探知機（試験調査船北洋丸に搭載）調査を実施し、主に最浅部の北側で、強い魚探反応を観察しました(図1)。
- 最浅部の表面では、昨年(平成13年)より3℃近く高い水温が観測されました(図2)。
- 調査エリア内の魚群分布量は、魚群量指数※で見ると、昨年同時期の2倍程度でした(図3)。
- 釣獲サンプリングでは、昨年より小さな体長21~22cmのホッケが多く釣れました(図4)。また、釣れた魚の8割以上が、ホッケでした。
- これらの結果から、平成14年春漁では、昨年よりホッケの漁獲量が増加すると期待されますが、漁獲物の型は小さくなると予想されます。

図1 魚探反応強度で表した利尻根付近の魚群分布
(数値が大きいほど、魚が多く分布する)

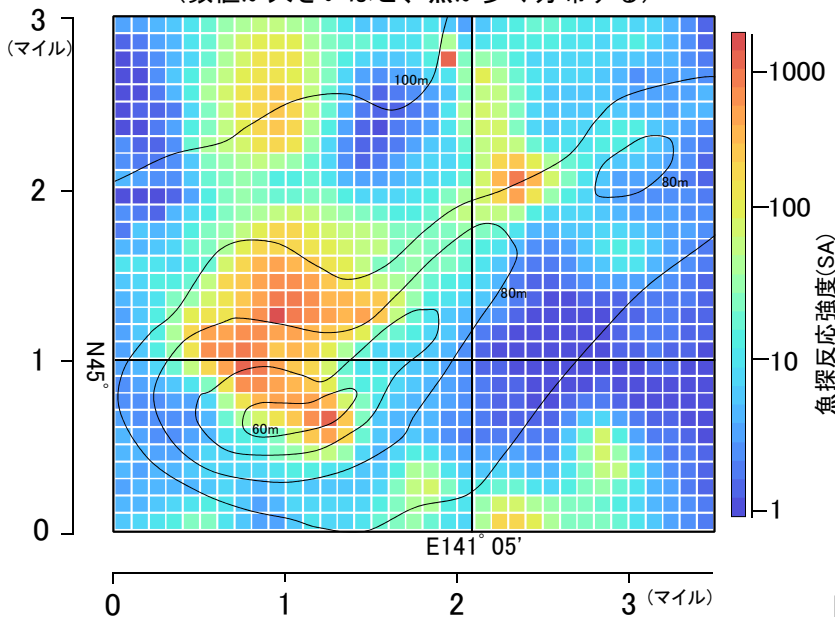


図2 利尻根最浅部の水温
水温℃

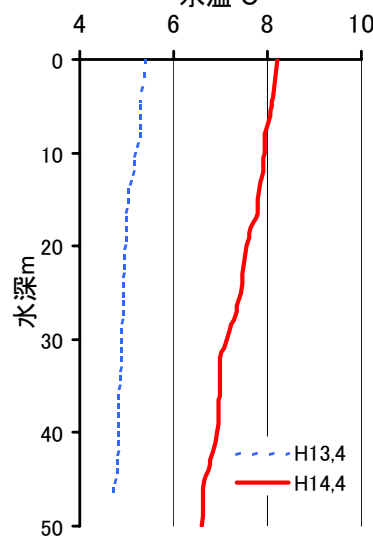


図3 魚群分布量の比較

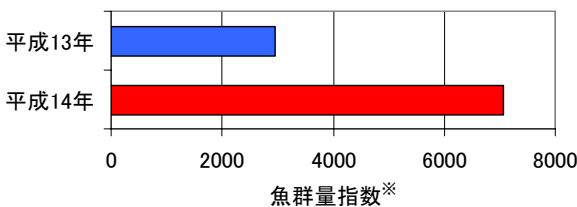


図4 釣獲標本（ホッケ）の体長組成

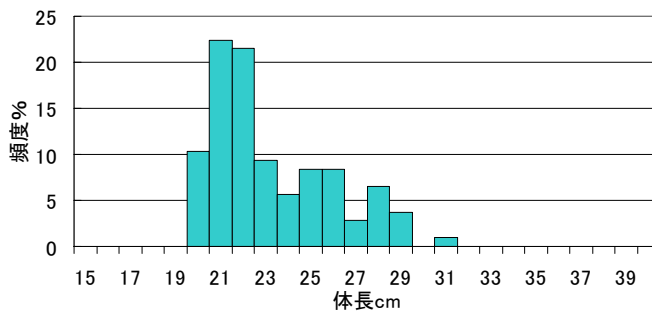
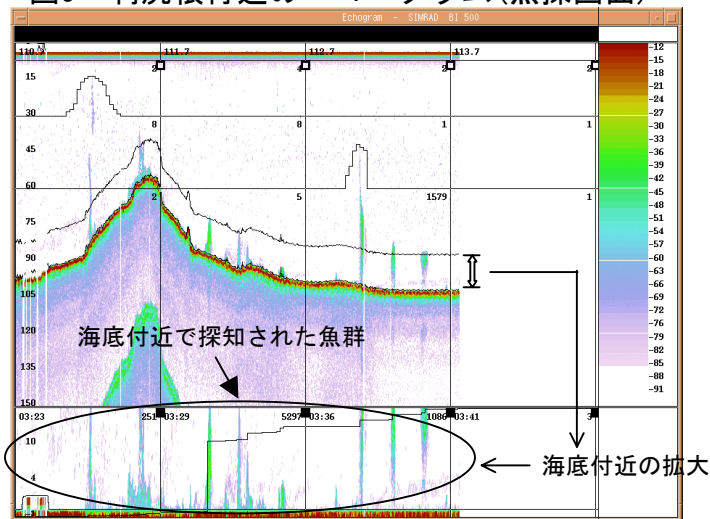


図5 利尻根付近のエコーグラム(魚探画面)



※ 魚群量指数：

魚探反応の強さを基準にして、調査エリア内に分布する魚の量を表した数値です。魚群量指数1000は、体長25cmのホッケ約620万尾に相当します。ただし、鰹(うきぶくろ)をもつ他の魚種が、混じって分布していると、ホッケの尾数は、これより目立って少なくなります。

今回は、西側の折込根周辺での調査も予定していましたが、時化のため、実施できませんでした。